多民族国家マレーシア

岡山市立太伯小学校
鳥　居　　恭　治

ジョホール日本人学校全員集合

マレー系マレー人

中華系マレー人

インド系マレー人

東マレーシアのマレー人

1　はじめに：海外日本人学校とは

在外教育施設の概要　　http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/f_sijo22.html

在外教育施設とは，海外に在留する日本人の子どものために，学校教育法（昭和２２年法律第２６号）に規定する学校における教育に準じた教育を実施することを主たる目的として海外に設置された教育施設をいう。この在外教育施設は，日本人学校，補習授業校，私立在外教育施設に分けることができる。

（1）日本人学校の概要

日本人学校は，国内の小学校又は中学校における教育と同等の教育を行うことを目的とする全日制の教育施設であり，文部科学大臣から国内の小学校又は中学校の課程と同等の教育課程を有する旨の認定を受けている。

日本人学校は，一般に現地の日本人会等が設置主体となって設立され，その運営は，日本人会や進出企業の代表者，日本人学校校長，在外公館職員，保護者の代表者等からなる学校運営委員会によって行われている。運営経費は，授業料等の保護者負担金，企業等の寄付金及び国の種々の援助で賄われている。

昭和３１年にバンコク日本人学校（タイ）が設置されて以来，平成１６年４月１５日現在では，世界４９か国・地域に８２校の設置をみている。また，日本人学校には幼稚部を併設しているものがあり，その数は１３校である。

日本人学校においては，国内の小学校又は中学校の課程と同等の教育が行われており，その教育課程は，原則的に国内の学習指導要領等の定めるところによる。主たる教材である教科書については，国内で使用されているものが海外の子どもに対しても無償で給与されており，それを使用している。年間授業時数は，国内の取り扱いに準拠しているが，現地の自然・社会事情等により様々となっている。なお，現在，多くの日本人学校で週５日制が実施されているところである。

また，近年の国際化の進展に伴って，日本人学校においては，海外における教育という特性を生かし，国際性豊かな日本人の育成に寄与する教育活動を展開することが求められている。現在，日本人学校においては，それぞれの所在国の言語や歴史，地理などの現地の事情にかかわる指導を取り入れたり，現地校等との協力の下に，運動会，音楽会等の諸活動を通じて現地の子どもとの交流の促進に努めている。日本人学校の中には，国際学級を設けるなどして外国人の子どもを受け入れているところもある。

さらに，すべての日本人学校の小学部において，英語，英会話等の外国語教育が実施されているほか，中学部においても，教科としての英語以外に英会話あるいは現地の言語に関する外国語教育が実施されている。なお，所在国によっては，現地法制上，現地の言語，歴史等の授業の実施が義務付けられている場合がある。

現在（平成１６年４月），１６８４０人の児童生徒が学んでいる。

（2）補習授業校の概要

補習授業校は，現地校，国際学校（インターナショナルスクール）等に通学している日本人の子どもに対し，土曜日や放課後等を利用して国内の小学校又は中学校の一部の教科について日本語で授業を行う教育施設である。補習授業校の中には，少数ではあるが，授業時数や授業科目がほぼ日本人学校に準じているもの（いわゆる準全日制補習授業校）もある。

昭和３３年にワシントン補習授業校（アメリカ合衆国）が設置されて以来，平成１６年４月１５日現在では，世界５６か国に１８６校の設置をみている。

補習授業校においては，国語を中心に，補習授業校によっては算数（数学），理科，社会などを加えた教科について，基礎基本を習得するための授業を国内で使用されている教科書を用いて実施している。補習授業校の年間授業日数は，４０日から５０日程度のところが多く，教科書の内容を精選して指導している。また，補習授業校では，いろいろな現地校等に通学している日本

人の子どもが一堂に会する数少ない機会であることに着目して，日本の学校の学習習慣，生活習慣などを指導し，併せて，日本の学校文化に触れる場を設けているところもある。

現在，１６５００人の児童生徒が学んでいる。

もう一つ，現地校への在籍者は，２０８０７人となっている。
合計で５４０００人が海外で学んでいることになる。
（平成１６年５月現在）

２　ジョホール日本人学校の概要　http://www.japanclub.org.my/jsj/

学校名　：ジョホール日本人学校（在マレーシア日本国大使館付属日本人学校）
現地語　：The Japanese School（ Johor ）　［ Sekolah Jepun（ Johor ）］
所在国名　：　マレーシア　（ Malaysia ）
設立年月日：　平成９年（１９９７年）４月１５日
　　文部大臣認定の在外教育施設認定校
　　（ 1997.12.26 付 文部省告示第 24 号，
　　1998.2.17 付 官報公示 ）
学校所在地：　No.3 Jalan Persisiran Seri Alam, Bandar Seri Alam,
　　81750 Johor Bahru , Johor, Malaysia
電話･Fax　：　電話 07-386-4562　　Fax 07-386-4561
E-Mail　：japschjh@tm.net.my
設置者名　：　ジョホール日本人会〔会長；三輪祐司（ Brother　Engineering（M））〕
運営主体名：　日本人学校運営委員会
（会員構成：日本人会代表，出張駐在官代表，ＰＴＡ代表，学校代表を含む１０名）
児童生徒数：１３７名（９学級）※小学部１０８名（６学級），中学部２９名（３学級）

３　マレーシア国について

（１）政治体制・内政

独立年月日	１９５７年８月３１日
面　　積	３３０，１１３平方キロメートル
人　　口	２４５３万人
住　　民	マレー系　中国系　インド系
主要言語・公用語	マレー語
通用する言語	マレー語　英語　中国（北京）語　タミール語
主 要 宗 教	イスラム教　仏教　ヒンズー教　キリスト教
首　　都	クアラ・ルンプール（Kuala Lumpur …以後ＫＬと表示）
政　　体	立憲君主制
元　　首	国王（His Majesty Tuanku Syed Sirajuddin Syed Putra Jamalullail）
国　　会	二院制（上院７０議席　下院２１９議席）
政　　党	与党…統一マレー国民組織（ＵＭＮＯ），マレーシア華人協会（ＭＣＡ），マレーシア人民運動党（GERAKAN），マレーシア・インド人会議（ＭＩＣ）等からなる国民戦線（ＢＮ） 野党…汎マレーシア・イスラム党（ＰＡＳ），民主行動党（ＤＡＰ）など

（２）経済

Ｇ　Ｄ　Ｐ	約６０７億１千万米ドル（２００３年）
一人あたりＧＮＰ	３８４０米ドル（２００３年）
総輸出額	１００６.０６億米ドル
主要輸出品目	輸出：電気・電子製品（50.9 %），化学製品（5.3 %），パーム油（5.1 %） 原油（4.0 %），天然ガス（3.3 %）
主要輸出相手国	1.米国(19.6 %)　2.シンガポール(15.7 %)　3.日本(10.7 %)
対日輸出額	１０９．８９億米ドル（原油，機械等）
総輸入額	８０８.５９億米ドル
主要輸入品目	電気電子製品の部品・中間財，鉄鋼・化学品など産業用原材料， 産業用機械等資本財
主要輸入相手国	1.日本(17.1 %)　2.米国(15.3 %)　3.シンガポール(11.7 %)
対日輸入額	１４０.５６億米ドル（輸入先第１位。資本財，中間財等）
通貨単位	リンギ・マレーシア（ＲＭ＝ Ringgit Malaysia）
補助通貨単位	セン（１ RM ＝ 100Sen）
為替レート	１米ドル＝ 3.8RM（固定相場制）1RM ＝約 28.61 円（2004 年現在）
日本との時差	１時間（日本の正午＝マレーシアの午前１１時）

（以上数値は在マレーシア日本大使館による）

（３）　地理

マレーシアは，東南アジアの中央部，すなわち北緯０度５４分から７度２８分，東経９９度４４分から１１９度３０分の間に位置し，南シナ海をはさんでマレー半島の南半分（半島マレーシアといいます）とボルネオ島の北西海岸地域（サバ州及びサラワク州）からなっています。

半島マレーシアは，北はタイと国境を接してアジア大陸に連なり，西はマラッカ海峡をはさんでインドネシア領スマトラ島に面しています。また，サバ，サラワク両州は，インドネシア領カリマンタンと境を接し，サバ州の北及び北東部はスルー海をへだててフィリピンに面しています。首都は，半島マレーシアの中央部，西海岸よりに位置するＫＬです。

国の総面積は３３０,１１３平方キロメートルで，そのうち半島マレーシア１３１,５９８平方キロメートル，サバ州７３,７１１平方キロメートル，サラワク州１２４,４４９平方キロメートルです。日本の総面積の約８７％にあたります。

（４）　気候

半島マレーシア及び，サバ，サラワク両州は，インド洋，南シナ海に面しているため，季節風の影響を受けて高温多湿であり，降水量も多く，季節の変化はほとんど認められません。

年間を通じ，南西モンスーン期と北東モンスーン期に区分されます。半島マレーシアでは，１０月から翌年３月までが北東モンスーン期で雨量が多く，その年間総降水量は，２,５００ミリ程度です。また，５月末から９月までが南西モンスーン期ですが，この時期は概して北東モンスーン期にくらべると雨量は少なく，このモンスーン期にはさまれた期間が，通常最も高温多湿です。ただし，年間を通じ，昼間は酷暑であっても夜間，早朝にかけて涼しくなるのでしのぎやすくなっています。

なお，ゲンティン・ハイランド，フレーザーズ・ヒル，キャメ

ロン・ハイランドなど，半島の高原地帯は年間を通じて冷涼なリゾート地となっています。
　クアラルンプールの一日の気温は，年間を通じて最高摂氏約３４度，最低約２２度です。最高は３６.８度，最低は１８.１度を記録したことがあります。平均湿度は８０.５％，年間降雨量は約２,３００ミリ，年間降雨日は約２００日です。

４　ジョホール日本人学校の紹介
「北緯1度，熱帯のアジアから」（海外子女教育財団へ2004．8）

（1）　アジアの中で着実な経済発展を遂げる国マレーシア
　マレーシアは，赤道直下の国で，マレー半島の南半分とボルネオ島の北半分で面積は日本の９割ほどです。気候は熱帯雨林気候で，平均気温が３０度前後で，雨季と乾季があります。半島南端のジョホールでは，現在雨季で，気温が乾季より２度ほど低くなっています。この２度の温度差を体感できるようになると，現地の気候が分かるようになります。人口約２，５００万人で，マレー系，中国系，インド系の住民が住む多民族国家です。公用語はマレー語ですが，日常会話には，マレー語の他，英語・中国語・タミール語が使われています。宗教は，イスラム教が国教と定められていますが，信仰の自由が認められており，街の中には，カラフルなヒンズー寺院や赤色が特色の中国寺院，白いキリスト教会なども見られます。人々は，それぞれの民族の文化や習慣をお互いに尊重し合いながら生活しています。

　今年１０月，マハティール首相が２２年間の在任を終えましたが，その間，ツインタワーの建設，新しい政治の街プトラジャヤの建設，ＫＬＩＡ（国際空港）の建設，Ｆ－１の誘致などを行いました。また，ＡＳＥＡＮのメンバーとして着実な地位を築き上げ，２０２０年までに先進国入りをめざして健全な経済発展を遂げています。

（2）　国境の町ジョホール・バル
　マレー半島の先端部に位置し，シンガポールとはコーズウエイ（国境の橋）で繋がり，マレーシアの南玄関が，ここジョホール・バルです。マレーシア第２の都市であり，１３州のうちの１つであるジョホール州の州都です。コーズウエイを渡り毎日シンガポールに１２万人以上の通勤通学者・旅行者が通っています。日本にはない，国境というものを本当に身近に感じることのできる街です。

　マレーシアにもモータリゼーションの波が押し寄せ，バイクは街に溢れ，車も毎年増えています。道路では，トラフィックジャム（渋滞）があちこちで見かけるようになっています。
　日本との関係では，ジョホールには日系企業が１９５社あり，在留邦人は１，２５０人います。スルタン（王様）所有のイスタナ公園には，昭和天皇から贈られた日本庭園があり，その中には茶室も建てられています。そこは，無料で開放されており，人々のジョギングコースや散歩のコースとして親しまれています。
　また，ジョホール州庁舎は第２次世界大戦の時，日本軍の司令部として使われたことで有名ですが，現在もそのままの建物が州庁舎として使われています。
　街全体を見渡せば，高層建築が目につく街ですが，至る所に緑があり，郊外には椰子のプランテーションやジャングルが延々と続きます。

（３）　マレーシアの教育環境
　多民族国家のマレーシアは，マレー語による授業が中心ですが，中国系，インド系の使用言語との２本立ての教育の学校もあります。

幼稚園は２年間で，言葉や文字の基本などを学びますが，２カ国語を学習することの方が多いようです。小学校は６年間で，就学率は高いのですが，日本と違い義務教育として就学の義務が法的に定められてはいません。

学校は，校舎の不足で午前と午後の２部制の授業が多いようです。中学校は３年間です。小学校と中学校での教育は無償となっています。

日本の高等学校にあたる学校は，２年間で，その後２年間の大学進学準備の学校を経て大学に進学します。上級学校への進学に際し，それぞれの学校段階で全国統一試験があり，飛び級の制度もあります。全国に１０ある大学は，ブミプトラ政策で民族毎の定員があり，中国系，インド系の子女の入学が難しくなっています。そのため，イギリスやオーストラリア，ＵＳＡなどへの留学生もたくさんいます。「ルックイースト政策（日本や韓国に学ぶ政策）」により日本への留学も多くなっています。

学校は１月に始まり，１１月の初めに終わります。１１月と１２月は長期の休業になります。

ジョホール在住の日本人子女は，ほとんど本校に在籍していますが，一部ジョホールやシンガポールのインターナショナルスクールに通っている児童生徒もいます。日本人の通う高等学校はジョホールにはなく，毎日国境を越え，シンガポールにある日系の学校やインタナショナルスクールに通っています。

（4） ジョホール日本人学校

毎朝６時から家を出て，夜７時や８時までかかってコーズウエイの国境を越えてシンガポール校に通っていた子どもたちのために，１９９７年４月ジョホール在住の日系企業や日本人会のご尽力により本校は設立され，現在開校７年目の学校です。学校はジョホール郊外の緑の多い閑静な場所にあり，小学部と中学部で１３７名の児童生徒が在籍しており，毎日６台のスクールバスで通学しています。

芝生の広い運動場と体育館，１年中泳げる２５ｍプール，２３台がＬＡＮに繋がっているコンピュータルームと施設も年々充実してきています。

学校教育目標を「自ら学び，自ら考え判断し，課題を解決する心豊かでたくましく生きる子どもを育てる」と定め，広い視野と国際感覚を身につけた日本人の育成をめざし，日々教育実践を行っています。

開校以来，基礎・基本の向上に努めると共に，校内研究では「国際教育のあり方」「現地理解教育」という視点で研究を進めてきました。国際理解教育を「他文化尊重の態度の育成・日本人としての自己確立・コミュニケーション能力の育成」ととらえ，海外在住という利点を生かして「現地理解教育」「英会話教育」だけでなく「総合的な学習の時間」も活用して研究を進めてきました。

ア　現地理解教育について

小学部の低学年は，生活科の時間を使って，ジョホールの街や施設についての学習を行ったり，動物園や学校周辺の地域についての見学を行ったりしています。また，現地のタマンリンティンＩ校に行ってマレーシアの遊びを教えてもらって一緒に遊んだり，本校に招いて一緒に出店を出して遊んだりして交流を行っています。

小学部中学年以降は，総合的な学習を「クラパ・タイム」と名付け，マレーシアの動植物について，インターネットや図書などを使って調べ発表していきます。また，社会科で学習し実際に

見学した警察署や消防署，浄水場やパサなどについても調べたりまとめたりして発表します。現地校とは，マレーシアの伝統的な遊びを教わり，日本の伝統的な遊びを教えることで交流を行ってきました。

小学部高学年では，マレーシアの衣食住を調べることや，修学旅行で行く東マレーシアやＫＬのことを調べることを通してマレーシアに対する理解を深めてきます。また，現地校との交流では，マレーシアのそれぞれの民族の衣装や踊りを教えたもらったり実際に踊ったりします。来校してもっらた時は，日本の伝統文化の折り紙を教えたり，浴衣を紹介したり，盆踊りを教えて一緒に踊ったりするなどの交流をとおして，お互いの文化の違いを体験しました。

中学部は，これまではマレーシア工科大学の日本語学科の学生と交流していましたが，本年度から同年代のコタティンギ・サイエンス・スクールの中学生と交流を始めました。日本の文化を調べて確認する作業から，説明のための英訳，実物作りなど自分たちで何とかして文化を伝えようと取り組みました。

中学部では，マレーシアだけでなく近隣諸国，世界の中での日本とマレーシアと視点を広げながら自分のテーマを追究していく調べ学習を展開しています。

イ　英会話教育

海外でのコミュニケーションの手段として，英会話能力の向上にも力を入れています。日常生活は，マレー語圏で，英語圏ではないが，どちらも通じます。本校の子どもたちにとっては英語の方がなじみがあり，今後の生活により生きる言語ということで英会話の授業を特設しています。

英会話は，各学年，週に２時間特設しています。また，小学部の総合的な学習の時間でも１時間英会話を取り入れています。授業は，１クラスを４～７人程度の習熟度別のグループに分け，４名の現地の先生方が担当しています。少人数で行うことにより，少しでも英語を使う機会が増えるように，個に応じたきめ細かな指導ができるようにしています。

ウ　現地見学など

各教科の中で，できるだけ現地の浄水場や消防局の施設・設備やパサなどを実際に見学し，日本との違いを肌で感じ取らせています。中学部では進路学習の一環として，現地にとけ込んでいる日本企業の工場を見学したり，ホテルでの職場体験や現地幼稚園での保育実習などをすることにより，職業に対する見方や考え方を養ったり，日本との結びつきを肌で感じたりできるようにしています。